

令和4年度
福祉サービス第三者評価 評価報告書

社会福祉法人 南高愛隣会
TERRACE ひだまり

長崎県指定『福祉サービス第三者評価』機関
医療福祉評価センター

(様式第 6 号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

①第三者評価機関名

有限会社医療福祉評価センター

②事業者情報

名称：TERRACE ひだまり	種別：生活介護
代表者氏名：布田 優子	定員（利用人数）： 20 名
所在地：長崎県雲仙市愛野町乙 810-1 TEL：0957-36-0054	

*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③施設・事業所の特徴的な取組

TERRACE ひだまりは社会福祉法人南高愛隣会の雲仙愛野地区の拠点である LOCAL STATION CROSS に所属する生活介護事業所である。TERRACE ひだまりのご利用者様は高齢の方が多くことから、ご利用者様の高齢化に対応した支援を取り入れ始めていることが特徴的な点である。具体的な取組事例としては、以前は全て同じ生活空間で支援していたご利用者様について、年齢や身体機能の違いにより必要とする支援内容が大きく異なってきたため、ご利用者様がより適切に支援が受けられるように行動障害のある方と高齢の方でグループ分けを行い、それぞれに適した支援を行うように大幅な支援体制の変更をしている。また、今後のご利用者の高齢化を見据えて基本の介護技術の習得のために令和4年度より「介護度アセスメント委員会」を創設し、介護知識・経験のある支援者より支援の評価と不足部分の研修を行ったり、島原市の特別養護老人ホームを見学して学んだ内容を法人内のグループホームと共同で介護講習として発表し支援員全体で情報共有したりするなどの取り組みを行っている。

TERRACE ひだまりはご利用者様の自立や主体性を尊重した支援の取り組みも特徴的である。生活介護の活動に就労系の活動（弁当配達や容器回収等）を取り入れ、ご利用者様へ作業に応じて工賃を支給することで、ご利用者様の意欲ややりがいを大事にしながら主体的な参加を促す支援となっている。

作業に対する工賃の支給以外にも、リハビリの時にご利用者様が目的を理解して主体的に取り組めるような声掛けの工夫や、ご利用者様の誕生月にご利用者様のやりたいことを実行する企画「ito project（イトプロジェクト）」等の取り組みには共通して、ご利用者様自身の意向や主体性を尊重した姿勢が伺える。これは法人理念「生きる誇りへの、挑戦」が支援として具体化され落とし込まれていることの表れであり、今後もこれらの取組を通じてご利用者様の主体性を尊重した支援を継続、発展させていくことを期待していきたい事業所である。

④第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月6日（契約日） ～ 令和5年3月6日（評価結果確定日）
受審回数	初回

⑤総評

◇特に評価の高い点

【拠点の目指す姿を具現化した取組み】

拠点 LOCAL STATION CROSS は誰もが行きかう空間をイメージして命名された。このコンセプト通り、老若男女ご利用者様も支援員も地域住民も集い、自然に交流ができる拠点となっている。法人の中でも特に複数の事業所を有する拠点であるため、ご利用者様は児童が庭で遊ぶ姿を建物の中から眺めたり、一緒に作業をするわけではなく、ふと周囲を見渡せば様々な人が存在して安心する空間となっている。雲仙市でも初めて展開する地区ということで、地域との関係作りは苦労があったと思うが、地域の園児が敷地付近を散歩していて、お互いに気持ちのいい挨拶を交わす等、地域に根付くような関わりを拠点全体で持続的に取組んでいる。

【地域との交流を活発にする取組み】

拠点 LOCAL STATION CROSS は自主的に年に3回運営推進会議を開催している。参加者は地域の自治会長や民生委員、婦人会、学校の校長先生、ご家族様等で、拠点の運営状況の報告や地域の情報を双方で共有する機会を作っている。情報を共有することで課題が明確になったり、解決に向けてお互いの強みを活かす機会となっている。また、拠点でマルシェを開催して地域住民が小さなお店を出店する機会を作り、老若男女、誰もが分け隔てなく集う場を提供して地域のコミュニティーを創造している。

【ご利用者様の自己決定を尊重する支援】

法人理念「生きる誇りへの、挑戦」のもと、法人全体でご利用者様の自己決定を尊重した支援を行っている。具体的な取組としては、毎年、大学と共同で利用者アンケートを実施し意向の確認や分析を行い支援を改善したり、個別支援計画書で「利用者及び家族の生活に対する意向」や、意向に基づいた「総合的な援助の指針」の項目を設け、ご利用者様やご家族様の意向と支援の方針の関連を明確にする仕組み（書式）作りを行っている。ご利用者様の意向に基づいて個別支援を作成し日々の支援へ繋げていく取り組みは法人理念の通り、ご利用者様の自己決定を支援する取組となっている。

日常的な支援においても、午後の活動である「いきいき活動」や「日替わりメニュー」の実施内容をご利用者様の意向を取り入れた内容にしたり日替わりで様々な種類の活動を行ったりしてご利用者様の意向を尊重した活動を行っている（新型コロナの感染防止のため現在は一部の活動を中止している）。

また、TERRACE ひだまりの特徴的な取組として、ご利用者様の夢やねがいを叶える「ito project（イトプロジェクト）」を行っている。「ito project」では支援員が事前にご利用者様が個人的にやりたいことや夢を聞き、ご利用者様の誕生月にねがいを叶える企画を実施する活動である。今年度の具体的取組としてはご利用者様の希望により温泉への同行支援企画を2件実行しており、日々の支援で対応が難しい内容のご利用者様の個別の意向も実現するための支援を積極的に行っている。

【ご利用者様の意欲も大切にした自立・自律への支援】

法人内の生活介護事業所の多くは、日中の活動内容の一部として作業を行っておりご利用者様へ工賃を支給している。TERRACE ひだまりにおいても、午前活動として弁当配達やディナーケース回収等の作業を行っており、作業内容等に合わせて評価を行い工賃の支給をしている。ご利用者様は工賃や、工賃で好きなものを購入するなどして目に見える成果を感じることで、作業に対する意欲や主体的な参加に繋がっている。また、ご利用者様の主体性を尊重した支援として、ADL（日常生活動作）の維持・向上のためのリハビリや運動の際にご利用者様に主体的に取り組んでもらえる声掛けについて、理学療法士との連携の上で、「……ができるようになりますよ」など、運動の目的、目標を伝える声掛けとなるよう工夫する支援も挙げられる。作業の工賃支給や、リハビリへの声掛け時の工夫などの取組からはご利用者様の主体的な意欲を大切にした支援の姿勢が伺える。

◇改善を求められる点

【ご利用者様やご家族様へわかりやすい説明の励行】

理念や基本方針、事業計画をご利用者様やご家族様へわかりやすく説明する件で、内容を理解してもらうことが困難で、且つ、ご家族様の高齢化もあり、完全に周知できていない状況とのことであった。説明に際しては一言一句全ての具体的な説明でなくとも、ポイントを絞って簡潔に、イラストや動画を使用する等今以上の工夫を期待したい。

【地域に向けた公益的な取組み】

拠点 LOCAL STATION CROSS の敷地内に AED(自動体外式除細動器)が設置されているとのことであった。地域に向けて AED の設置を周知することで、万が一の事態が発生した場合でも、安全安心の一役になると考えられる。また、新型コロナウイルス感染状況に配慮しながら、避難訓練等も相互に実施することで、互助の関係が構築できるよう期待したい。

【福祉サービスの継続に配慮した取組み】

TERRACE ひだまりは様々な理由で利用中止となるご利用者様に対して、今まで撮影した写真をアルバムにしてお渡しするとのことであった。このアルバムの最後のページに「何か困りごとがあった際は、お気軽に相談してください。」や困った時の連絡先を書き加えてみると、より一層の安心材料となり得るため、今後の取組みに期待したい。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

丁寧な対応や聞き取りなど、自分たちが評価をして頂くなかで、改めて自分たちが行っていた支援の振り返り、継続して行っていかなければいけないものがわかった。

利用者の方へのアンケートでは、伝える支援者も絵カードを使用・筆談・理解が困難な利用者の方には、わかりやすく説明するなど工夫し、支援者自身の勉強にもなった。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)